

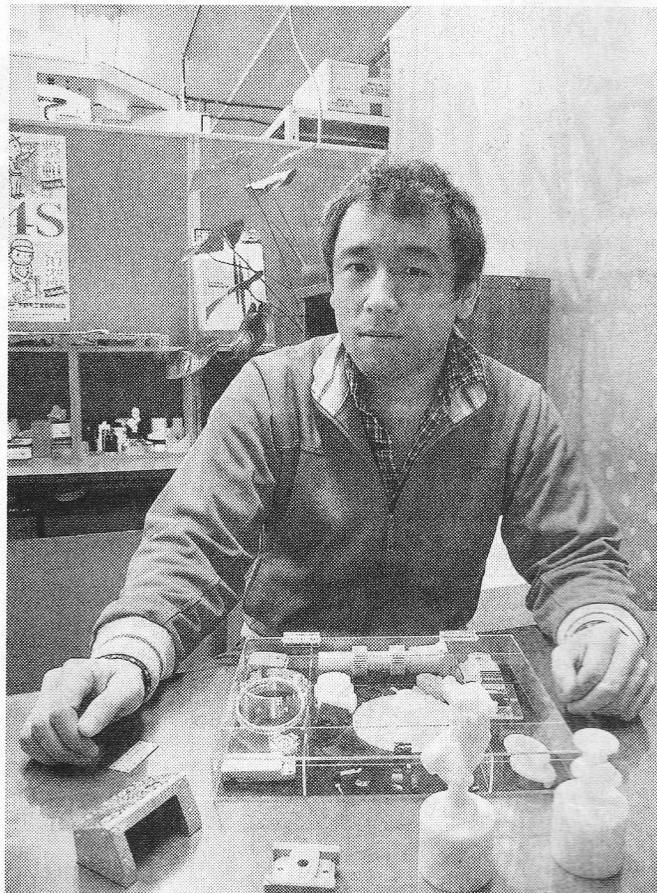
川崎・横浜・相模原

ものづくり



神奈川の製造業を応援&魅力を伝える

加工の「駆け込み寺」



日成工業

川崎市

「加工の駆け込み寺」と呼ばれる会社がある。社員4人の小さな有限会社、日成工業(川崎市中原区)には、難度の高い加工で困った同業者がこぞって相談に訪れるという。大手がコスト削減を進める中、逆に価格を上げた強気の見積もりを出せる理由は「オンリーワンの技術力。日本の町工場の底力をみた。」(千葉 龍太)

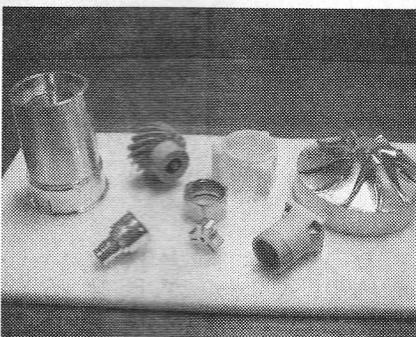
高め続ける技術力

半導体や液晶、自動車、医療機器…。金属や樹脂の精密部品加工を幅広く手掛け、難しい形状を必要とする加工では、大手から仕事を依頼されることもある。国内でも有数の試作加工メーカーとして知

負けない経営

「同時5軸加工」を武器に受注を増やし続ける日成工業の野田宜志営業部長
—川崎市中原区

半導体や液晶、自動車、医療機器…。金属や樹脂の精密部品加工を幅広く手掛け、難しい形状を必要とする加工では、大手から仕事を依頼されることもある。国内でも有数の試作加工メーカーとして知られる。そんな同社を陣頭指揮するのは、野田宜志営業部長(37)。創業者である父・照男社長の



長男で、技術職も兼ねる。「2月の稼働率は200%。忙しくて断っている案件もある」と言っている。仕事が集まる秘訣は「同時5軸加工」にある。3年ほど前にマシンを導入した。幅、高さ、奥行き、3次元加工に、

「傾き」と「回転」の二つを加え、同時に複数の面を加工する。複雑な形状にも対応でき、「5軸は加工の最終形」と胸を張る。「もし始めていなければ売上げは半減していた」(野田営業部長)。マシンがあったとしても、実際に使いこなすのは極めて難しく、高度なノウハウが必要という。周辺の町工場ではほとんど手掛けていな

また、創業以来積み重ねた職人技を生かしたマイクロメートル(千分の1ミリ)単位の微細加工技術も持っている。いまでこそ設計から加工までやっていたける野田営業部長だが、大学は文系で、10年前に入社するまでは証券マン。「ものづくりはど素人だった」と振り返る。

高い技術力は、入社当初から日課にしている勉強で身に付けた、という。帰宅後は技術書や専門書などをひたすら読みあさる。深夜2時になることもざら。得た知識を現場で実践するだけだ。「自分は」の道で生きていくと腹をくくった。覚悟を決めているからである。(同業者や海外勢に)負けたくない気持ちもある」と打ち明ける。

5軸加工はわずか2年で習得。肝心なのは「1年で3年分の仕事をする意気込み」とも。他社が敬遠する難しい仕事もあえて請け負う。その分、納期は延ばしてもらおう。「難しい仕事をやらなければ進歩がな。面倒くさい仕事をやらなければ町工場は生き残れない」との狙いがある。

社員は身内で固め、新卒の採用もない。閉鎖的と思われがちだが、「技術や情報が漏れるのを防ぐには信用できる人間を置くのが一番」。中身の濃い会社にした。いからと、規模も拡大しない考えた。

◆日成工業 樹脂・金属の精密機械加工。資本金1千万円。川崎市中原区宮内2の24の1、☎044(797)2223。